

身近な野鳥

～茅野市公民館報から～

茅野市中央公民館で毎月発行している茅野市公民館報には、最終ページにふるさとに関するコラムを掲載しています。このコーナーは、平成15年(2003年)5月号から平成23年(2011年)9月号までの100回を「ふるさと百話」として、その翌月の10月号から平成31年(2019年)3月号までの90回を「ふるさと再見」として掲載しました。現在は「ふるさと発見」というタイトルで掲載が続いています。

今回は、長く続くコラムの中から、平成22年(2010年)4月号から平成31年(2019年)3月号までの9年間に渡り、野澤進之輔さんに執筆していただいた身近な野鳥の連載をまとめてみました。

日々の暮らしの中でよく見掛ける野鳥から、素人では見つけることが難しい野鳥まで、写真とともに多くの種類を紹介していただいていますので、ぜひご覧ください。



ふるさと百話 83

今回から茅野市青年自然の森勤務の野沢進之輔さんに野鳥のお話をさせていただきます。

アオゲラ

木を突いて、餌を取ったり巣穴をあけたりする鳥の仲間をキツツキと呼んでいます。諏訪地方にはアオゲラ、アオゲラ、コゲラ、オオアカゲラの四種類が生息しています。

アオゲラは世界的に広く分布していますが、アオゲラは日本にしかいません。アオゲラは、アオゲラよりずっと数は少ないですが、茅野市でも山地の林や、集落内の樹木などで時々見かけます。子育ての時以外はほとんど単独で暮らしています。

体の色は、背の方は緑、黄緑、黄、水色などですが、全体に緑色に見えます。お腹の方は、白と黒の横じまの模様があります。雄の頭部は鮮やかな赤色です。

林の中の動きは、木の



▲地面に穴を掘るアオゲラの雄

ふるさと百話 84

オシドリ

春先、水を張った水田で、オシドリに会いました。二羽はいつしよに行動することが多く、雌は雄のそばに寄りそっていました。仲の良い夫婦のことを「おしどり夫婦」と言いますが、

見ていて納得がきました。けれども夫婦の間隔は短く冬から雌が抱卵を始めるまでの間だけです。雌は巣から離れて雄だけの集団で暮らします。抱卵や育児はすべて雄だけで行います。次の年はお互いに違う相手と結婚すると言われてい

4、5月は豊平の上空を番で飛んでいる姿を時々見かけます。雌は飛びながら「クエツ、クエツ、クエツ」とよく鳴きます。巣場所を求めて飛んでいるのです。

雌は美しい複雑な色彩をしていて大変目立ちます。

名前の由来も姿から



▲オシドリの雌(左)と雄(右)

「愛しい」がもとになっています。

市内では、低山帯から高山帯にかけて、ほぼ一年中生息しています。冬期は群れで、池や湖や溪流のよどみなどで生活しています。夜行性で、昼間は岩や草のかけで休んでいます。横谷峡にはおしどり隠しの滝という地名もあります。竜神池では結氷期を除く秋から春にかけて見ることができ

巣は水鳥としてはめずらしく多くは樹洞に作ります。ひなは生まれるとすぐに木の穴から飛び下りて歩いて水辺へと移動します。餌は植物質で、特にドングリが大好きです。

(野沢進之輔)

ふるさと百話 85

キジ

キジは日本の国鳥とされ、昔話に出てくることや人里近くにもいて姿を見つけてやすいことなど、よく知られ親しまれている鳥です。

雌は色彩が豊かで、いろいろな色が混じっています。これに対して雄は全身茶色で、黒い斑があります。雌雄とも長い尾を持っています。

キジは本州、四国、九州に留鳥として一年中生息しています。平地や山地の草原、農耕地、雑木林、河原など、比較的人間の活動が多い開けた環境を好みます。大型で「ケン、ケン」と春先大きなよく通る声で鳴くので、茅野市でも目につきやすい鳥です。

繁殖期は4〜7月で、地上の草むらにお皿のような巣を作ります。結婚は一夫多妻が多いと言われてい



▲色彩豊かなキジの雄

歩けたり、餌をついばんだりできます。母親といっしょに生まれた日には巣を離れ移動します。子育ては秋までずっと雌のみで、雌はなわばりを捨てて、雄同士の群れで生活します。

「焼野の雉子夜の鶴」というたえがあります。野を焼かれたキジが自分の身を忘れ、子を救うという意味です。以前、土手で草刈りをしていた人から、刃が抱卵中の雌に当たってけがをしたキジが持ち込まれ、手当てをしたことがありました。たえは本当なんだと実感しました。

(野沢進之輔)

ふるさと百話 86

キジバト

キジバトは茅野市で一年中生息している、農耕地やその周辺の集落、低山帯などほぼ全域で見ることが出来ます。市街地の街路樹や庭木でも巣をかけます。

大根や大豆の種をまくと食ってしまうので、困っている方もいらつしやることでしょうか。

羽の色は雌雄同じです。羽の模様や色がキジの雌に似ていることから、この名前が付きました。やまはどの方がよく知られています。2月になると「ポポポポッポ」と温もりのあるのどかな声で鳴きます。

繁殖期間は3〜11月と長くなっています。ヒナの餌は、親が穀類などを呑み込み、体内でどろどろの液にして、それを戻して口移しに与えます。これはピジョンミルクと呼ばれ、雌も雌も行います。虫を与えるほかの小鳥に比べて、冬季を除いて長期間子育てできる



▲巣材を運んでいる雄のキジバト

のはヒナへの餌の与え方にあります。一番の親は一年で、3〜4回繁殖します。巣は樹木の茂みなどに小枝を組み合わせて皿状に作ります。巣材は雄が運び、雌は巣の中にいて、くちばしで受けとり、巣を作っていきます。卵は普通2個で、色は白です。抱卵は昼間約8時間が雌、夕方から翌朝まで約16時間は雌が連続して行い、その間巣から離れることはなく餌も食べません。冬季は単独かペア、または数羽で生活し、大きな群れを作ることはありません。(野沢 進之輔)

ふるさと百話 87

アオバト

茅野市に生息しているハトのなかまは前回のキジバトとアオバトの2種類です。ほかに伝書鳩が野生化したアオバトも多く見かけます。

アオバトは全身が緑や黄緑の美しいハトです。くちばしは鮮やかな水色で目は赤く、足は羽毛に被われています。

全国的に山地の林に分布していますが、数は少なく出合えるチャンスが少ない鳥です。

私は30年位前に上原でスクランボに掛けてあった網に引っかかってしばらく飼われていたアオバトを見たことがあります。また15年位前に塚原で店舗のガラス窓にぶつかって弱っていたところを保護したこともありました。移動の途中の5月頃は竜神池や蓼科の森や林でよく声を聞きます。鳴き声は「アオー、ア



▲水を飲むアオバト。左が雌、右が雄。

オー」とオカリナの音色に似て物悲しく聞こえます。地方によっては、不気味な声として恐れられています。この鳥は海岸で海水を飲むことで有名です。内陸では、温泉や工場の廃水などは、塩分を含んだ水や土を取ります。そのわけは、サクラの実やクワグミなどの果実が好きなため、ミネラルが不足になるからと言われています。冬は暖かい地方に移動しますが、稀に残っているものもあります。諏訪地方での繁殖は確認されていませんが、可能性はあります。(野沢 進之輔)

ふるさと百話 88

オオタカ

オオタカはカラスほどの大きさで、胸から腹にかけて、黒の横縞模様がありま

すが、遠くからは、白く見えます。絶滅危惧種で開発の成否を左右するほどの貴重な鳥です。タカと言えば、この種を指すほどで、絵画に描かれ、鷹匠による鷹狩りに使われてきました。

茅野市では、平地から亜高山帯まで、山地の森林に一年中生息している、農耕地や草原などでも狩りをします。餌は9割がハト・ヒヨドリ・カモ類など中型以上の鳥類ですが、ほかにネズミ、リス・ウサギなどの哺乳類



▲オオタカの雌

オオタカは精悍な顔付きで、体全体に風格があります。(野沢 進之輔)



▲オオタカの雄

も食べるようです。今年の4月から7月にかけて、尖石遺跡付近で繁殖し、巣作りから巣立ちまで観察出来ました。アカマツ林によく巣をかけるようですが、ここではカラマツでした。高さ15mの枝に小枝を組んで、直径約70cm、厚さ約50cmほどの大きな巣を

ふるさと百話 89

ヤマセミ

ヤマセミはハトより少し大きめで、たくて長いくちばしを持ち、頭に大きな冠のような羽があり、白と黒の縞模様をしたたちよつと変わった姿や色をした鳥です。

前の80円切手でおなじみの鳥ですが、実際に見る機会は、そう多くありません。

アジア南部に生息し、日本では九州から北海道まで分布し、一年中はほぼ同じ場所で生活しています。山地の溪流や湖・池などをすみかとしています。

茅野市でも上川や音無川などの水がよどんだところに住んでいます。これは餌が、イワナ、ヤマメ、ウグイなどの川魚が主であるためです。餌の1割位は、カエル、サワガニ、水生昆虫などです。

川に突き出た枝や石の上に止まっていて、翼をたたくんで急降下して、水中で餌を捕ります。その他、羽は

たきながら、空中で体を静止して、水中に飛び込むこともあります。捕らえた魚は石や枝に戻って、頭から呑み込みます。大きな魚は枝や石にたたきつけて、弱らせてから食べます。大きなくちばしは、魚を捕ったり、料理したりするのに必要不可欠です。



▲川の石の上で魚を探るヤマセミ

声は「ケレツ、ケレツ、ケレツ」と歯切れよく、鋭く鳴きます。

ヤマセミが住んでいることは、餌になる魚が多く、その魚の餌を支える水生昆虫なども多いことなど、豊かな自然が保たれている証拠といえます。

(野沢 進之輔)

ふるさと百話 90

カワセミ

翼や背中が、光沢のある青色をしていて、空飛ぶ宝石と言われています。翡翠はもともとカワセミを指しますが、同じような色をした宝石も翡翠と言うようになります。

なりました。太陽光線の加減で青、水色、紫などにも見えます。

体の大きさはスズメ位ですが、頭が大きく、くちばしは太くて長いため、ずつと大きく感じます。大きなくちばしは川魚、カエル、エビ、カニなどを捕らえたり食べたりするのに便利です。

日本では留鳥として全国各地におり、一年中はほぼ同じ場所です。生活していません。茅野市でも上川や音無川などの河川や、竜神池など



▲川の上の枝で魚を探るカワセミ

の湖沼に生息しています。

普段、雌も雄も単独で縄張りを持っていますが、子育ての時のみ番で縄張りを待ちます。群れて生活することはありません。

巣は急な崖や土手に横穴をくちばしで掘って、その奥に小さな部屋を設けた中に作ります。

声は「チーツ」と鋭く鳴きます。

一時川の汚染や土手のコンクリート護岸化により減少して心配されましたが、最近は各地で再び見られるようになり、場所によっては増えている所もあります。カワセミに出会うと、そこだけ輝いて見え、ワクワクした気分になります。

(野沢 進之輔)

ふるさと百話 91

オナガ

オナガは名前のいわれるように、全長約37センチ、体の半分は尾です。

全体に水色の美しい鳥で、翼や尾は特に水色が濃くなっています。

子をかぶつたように見えます。頭は黒い帽子をかぶつたように見えます。

は区別できません。カラスの仲間ですがカラス科としては小型です。

声は「ゲイー、ゲイー」とか「キューイー」とか「チュルチュル」とか鳴きますが、美声とは言えません。

分布は関東を中心に、本州の中部以北に多くいます。「昔、諏訪にはいなかった鳥だ」と年配の方は言います。



(野沢 進之輔)

諏訪地方では比較的新しい鳥で、山梨方面から入り込んできたようです。

最初に諏訪地方で繁殖が確認されたのは1969年で、今では一年中見ることが出来ます。

人家の周辺や村里に生息していて林や森ではあまり見られません。特に果樹園の周辺に多く暮らしています。餌は雑食性で、昆虫を始め、穀類など何でも食べますが、特にリンゴやカキなど果樹が好きなので、栽培している方からは嫌われています。

群れ生活を基本とする鳥で数羽から数十羽くらいで生活しています。始めは急激に増えましたが、今では安定しています。入ってきて40年位です。で、今後どのように変化していくのか興味のある鳥です。

ふるさと百話 92

カケス

林の中を歩いていると「ジュエイ、ジュエイ」としわがれたような声を、時々耳にします。この声の主がカケスです。普段はこんな声なのに急に巧みに鳴きまわをします。いろいろな鳥の声をはじめ、イヌやネコ、救急車のサイレン、チェンソーなど、さまざまです。カケスはカラスの仲間です。大きさはハトくらいです。特によく目立つのが、翼の付け根にある青と黒の鮮やかな縞模様です。林の中でこの羽を拾うと宝物を見つけたようにうれしくなります。

日本での生息地は本州から九州までで、ほぼ一年同じ場所で生活しています。茅野市ではナラ類を主とした林に居て、そ



▲落ち葉の中からドングリを掘り出したカケス

で繁殖しますが、冬は集落やその周辺の林でもよく見かけます。餌は雑食性で昆虫や果実や種子なのですが、時には小鳥の巣をおそって、卵やヒナを食べてしまいます。特にドングリが好きで、秋には5〜6個のドングリをのどに溜めて飛び去ります。これを地中に隠し、その上に枯れ草やコケを載せます。冬に食べ物が少なくなる頃掘り出して食べます。賢い鳥でかなり正確にその場所が分かるようです。ドングリがなる木にとつては、食べ残した種子から芽が出るので、分布を広げてもらえる大切な鳥です。

(野沢 進之輔)

ふるさと百話 93

キクイタダキ

日本に生息する野鳥の中で一番小さく、それはかわいらしい鳥です。体長は10cmほどで、体重はなんと1円玉5個と同じ5gです。体の中で特に目立つのは、頭の上にある黄色です。この色をキクの花びらに見立てて、頭の上にキクをのせている「菊を戴く」という意味からキクイタダキと呼ばれるています。この黄色は黒い縁に囲まれている、一層鮮やかに見えます。世界的にはユーラシア大陸の緯度の高い地方に分布しています。

日本では北海道と本州中部以北に生息しています。夏は八ヶ岳などの標高千五百m以上



▲頭の黄色が目立つキクイタダキ

の針葉樹林で繁殖し、冬は低山帯に下りて来ます。尖石忠跡公園内にあるドイツトウヒやモミで12月頃から見られます。一年を通して、主に針葉樹の外側の上の方で餌を取り暮らしています。樹木の中をたえず動き回ってじつといています。時にはカラ類の仲間といっしょの群れの中にもいることもあります。餌は昆虫やクモですが、冬でも小枝や葉にいる虫を探して飛びついて食べています。冬の厳寒期でも木々の間にたくさんいる虫がいてことに驚いてしまいます。

(野沢 進之輔)

ふるさと百話 94

ウソ

ウソは冬から春にかけて、桜や梅やツツジなどの蕾を好んで食べるので、「春を食べる鳥」とも言われています。2月から3月にかけて、桜の名所の公園に行くと見ると、ウソの声を聞いたり、蕾を食べているウソに出会ったりします。大量のウソが押しかけると桜の開花に影響があるようです。蕾をまるごと食べるのではなく、中心部にある子房と呼ばれる部分だけを食べているため、食べられた木の下にはたくさん

の蕾が落ちていきます。外から見えない栄養価の高いおいしい部分だけを食べているのです。ウソとは変わった名前です。これは鳴き声からきています。「フイフイ」という声、人の口笛に似ているので、うそぶく(口



▲桜の蕾を食べるウソ

笛を吹くこと)からウソになったとか、口笛を意味する古い言葉の「おそ」がウソに変化したとも言われています。ウソは頭と尾が青い光沢のある黒色をしています。雌はのどとおが赤く目立ちます。くちばしは短く、全体にふつくらした感じがあります。夏は標高1500m以上の針葉樹林帯で暮らしています。4月から5月に山に移動して、子育てをします。秋になると再び里近くに下りてきて暮らしています。

(野沢 進之輔)

ふるさと百話 95

ウグイス

多くの方はうぐいす色といえは、うぐいす餅の鮮やかな黄緑色を思い浮かべると思いますが、ところがウグイスの体の色は、少し緑がかつた茶色です。辞書では

「緑に茶と黒がかつたもの」とあり、写真のような色をしています。

黄緑色のモデルになった鳥はメジロです。梅の花の蜜を吸いに来るメジロと混同した結果、メジロの色がうぐいす色として広まったようです。

梅にうぐいすの取り合わせは有名ですが、ウグイスは藪など茂った場所を好むため、開けた梅の木に止まることは、めつたにありません。

ウグイスは夏、山で子育てをし、雪などで餌がなくなる秋になると里に下りてきて暮らしています。冬は人家の生け垣や公園の藪など、一羽ずつ別々に生活し



▲体を細めて鳴くウグイス

ています。地味な色で少し、声も「チャツチャツ」と小さいし、茂みの中にいるので、見つけにくい鳥です。春になって美しくさえずるのでいることがわかります。冬にいた場所で「ホーホケキョ」と鳴き始め、4月の終わりに山に帰ってきます。

(野沢 進之輔)

ふるさと百話 96

カッコウ

5月中旬になると、あちこちから、カッコウの音が聞こえてきます。誰でもすぐ分かる声で、そのまま鳥の名前になっています。

世界的にはユーラ

シア大陸の広い範囲とアフリカなどに分布しています。日本には、東南アジアなどから、九州と北海道にかけて渡って来ます。夏の渡り鳥としては、他の小鳥と比べると遅いほうです。

雄が先に渡ってきて縄張りを確保し、後から来る雌を待ちます。高い木のてっぺんや電線など、よく目立つ場所で鳴くのは、自分の縄張り

を主張するためです。茅野市では農耕地の周辺、明るい林、草原、河原、平地の開けた場所などに生息しています。

カッコウは自分の巣を作らず、托卵と



▲電線で縄張りを見張るカッコウ

いつて、ほかの種類の小鳥の巣に卵を産み、育ててもらいます。托卵される鳥は、モズ、ホオジロ、オナガ、オオヨシキリなど20種以上にもなります。托卵の仕組みは、相手の小鳥に気づかれないように実に巧妙で、驚くことばかりです。

繁殖の時、雌は不特定多数の雄と交尾をします。餌は昆虫やクモですが、チョウやガの幼虫が大好きです。

カッコウは孤独な鳥といわれ、夫婦・親子といった関係はないようです。

(野沢 進之輔)

ふるさと百話 97

アオジ

4月中旬になると、青少年自然の森の中で、「チツチヨンチリリリ」と澄んでいて、ゆつくりとした声が続いてきます。この声のアオジです。

夏は本州中部以北と北海道で繁殖します。茅野市では標高千m〜千五百mの間の藪の多い明るい林で生活しています。

冬は西南日本の温かい地方に移動し、林の縁や公園、人家の生け垣などにおいて、「ツツツ」と小さな声で鳴いています。茅野では冬はほとんど見かけませんが、12月に豊平の土手で見たことがあります。

アオジのアオ(青)は体の色からきています。昔は緑色を青と表記していたようです。アオジのジ(鷓)はホオジロの仲間(鷓)の鳥をさします。雌雄とも全身黄緑色



▲なわばりの見張りをするアオジ

ですが、雌は嘴から目にかけて黒っぽいので区別がつきます。繁殖の時期は5〜7月です。巣は地上から平均1・5mと比較的低い藪の中に作ります。巣づくりや抱卵は雌のみが行いますが、ひながかえると雌雄で餌を与えます。雌は5千個位の広さのなわばりを持ち、しっかり守っています。餌は地上で採ることが多く、草の種子やズミなどの果実を多く食べますが、夏は昆虫もよく食べます。

(野沢 進之輔)